

No. 57

2004

2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
大屋敷 清 利
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

燃えあがる炎を見つめて 新しい年を思う



元日は深い霧とともに明けた。まるで日本のおかれた国際的、経済的現状そのもののようだと一瞬思った。けれども、現実の霧の上には、晴れやかな初日の出の太陽が登っていたのだ。今年は、その予感の通りのおだやかな松の内が続いた。

人々はおせち料理に、新しい年の健康への願いを託し、松飾りやかずかずの正月行事に、豊作への祈りをささげてきた。ところがいま、そうした伝統が、急速に失われつつあるという。

さまざまに原因は取りざたされている。しかし、その根源には、ひとびとの自然にたいする畏敬の念が失われ、心の中の祈りというものがなくなったからではあるまいか……

まわりを見回せば、四季を感じる必要のない食材、野の薫りのない生活、それらを文化と勘違いしてはいまいか。

その中にどっぷり浸かってしまっている我々は、深い闇の中にいるようなものだ。けれども、闇はどこまでも続きはしない。力を合わせて伝統を守ろうとする「ほんやり」の炎の中に、私は人間の逞しさと、信じられる祈りの心を見た。

下市田区

新三役の紹介と挨拶

昨年十月、下市田区三役の任期満了に伴ない、立候補並びに適任者の推薦を告示し、区民による信任投票の結果、新三役が決定しました。



区長 大屋敷 清利



副区長 木下 豊

この度、区三役の改選にあたり、図らずも区長の職を留任することになりました。もとよりその器ではありませんが、区民各位のご指導ご鞭撻を受けてその任を全うして参りたいと覚悟を新たにした次第であります。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、下市田区副区長として選任されましたが、その器でないことを改めて認識しながらお引き受け致しました。皆様のご指導ご支援を頂き、一生懸命努めたいと思いますので、よろしくお願い致します。

尚、前会計任期中に賜わりました皆様の深いご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

高森町の人口一万三千人突破の中で、下市田区も四千五百人余、町の三分の一強を擁する区であります。区内六つの区は、それぞれ特色ある運営がなされ、区全体として一体となって進んでおります。区民の融和と発展を願っています。

国も地方もきびしい財政の中、下市田区も今後の財政等きびしさが予想されますが、一方下市田では人口、世帯数共年々増加し、その中から求められる、より綿密な生活環境の整備を始め、地域のコミュニティ、靑少

年と地域の関わり、核家族化に伴う介護や緊急時の対応など、山積する課題に向かって、皆様と共に取組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。



会計 林 稔

この度、区の改選により、図らずも会計に選任されました。もとよりその器ではありませんが、お引き受けした限り私なりに精一杯努めて参りたいと思います。お受けして一ヶ月、会計

の任に当たって見ますと、先輩の皆様の努力の勲迹がつくづくと偲ばれ、敬服いたしますと同時に、果たして全う出来得るのかという不安が過ぎります。

何卒、区民の皆様のご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

私は飯田市に接する下市田でも最南端の地域に住んで居りまして、区に生まれ育ちながら、地域に疎く、お行き会いしてもお名前のわからない方が多くありま

退任挨拶

前副区長
大沢 操

去る十月の区三役改選により、副区長を退任させていただきますことになりました。

区役員として四年間大変お世話になりました。今日まで大過なく務めさせていただきましたのも、区長さんを始め区役員の方々、代議員、公民館、その他大勢の区民の皆様のご協力ご指導の賜と、心から感謝申し上げます。

下市田区の事業も永年の懸案でありました「健康センター」もこの度下市田河原の旧農試跡地に建設が決まり、今年の夏から利用出来るものと期待しております。そのほか、北の原・羽根地区の道路新設計画も進んでおります。

新しい組織のもと、下市田区が住み良い地域として発展されますことをお祈り申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

新春を迎え、区民各位のご健勝を祈念致します。この度、区三役の改選にあたり、退任された大沢操さんには、会計・副区長と二期に亘ってお勤めいただいて重責を全うされ、心から感謝申し上げます。また、未熟ながら後任をお受けした新三役に対しても変わらぬご支援をお願い申し上げます。

区の情勢について

区長 大屋敷 清利

健康センターについては、前号において経過と現状を報告したので、その後についてお知らせする。

プロポーザルによって、九業者の提案設計を審査決定した鈴木設計が最近設計建設した類似二施設の現地視察と、専門委の細部検討を加えて成案を得、本設計が完了した。水中浴運動の温水プールは、水深調節のできる可動床が採用された。

建設は、九業者への説明入札が行われ、一億三千二百百万円で神稲建設が落札した。いよいよ一月二十六日

安全祈願祭が行われ工事着手の運びとなった。

今後は、管理運営について更に研究を深め、多くの方々にご活用いただけるように願っている。

昨年暮れ頃、区民会館北駐車場にピカピカの火の見櫓が出現した。これは、参

道線荒神社入口にあった火の見が、荒神社線の拡幅工事のためやむを得ず撤去され、区民会館北へ新築となった。火の見は消防のシンボル、区の中心部で存在感を示している。

尚、この道路工事で、急カーブ緩和のため、荒神社敷地内の旧会所も撤去された。

県事業で、国道の歩道設置事業が、平成十六年度実施予定で、国道西側Aコープから北の原南駐車場前まで、幅二・五メートル、長さ三百メートルが概略設計に入ることになった。北村

新道と併せての工事予定。本年は、萩山神社の七年目毎に行われる式年祭「御柱」の年である。申年の皆さんを中心に関係者の会、検木、山出し、綱打ち、里曳き建立が行われる。祭りは三月二十七・二十八日である。

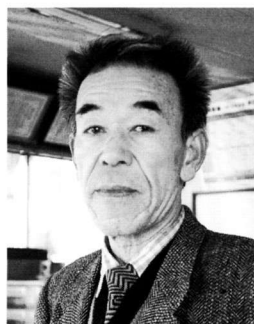
萩山郷土芸能保存会

副会長(幹事長) 甕 美奈人

下市田区民の皆様方には御家族お揃いで御健やかな新春をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年は何かと暗いニュースが多く激動の一年でしたが、今年こそは明るい会話が数多く聞かれる事を望まずにはいられません。

昨年十二月

月六日、平成十六年度の新体制が発足致しました。萩山神社の春祭り、獅子舞は二百年を越える由緒ある歴史を刻んでいる事は、皆様方御衆の通りであります。昨年の大祭には、幹事として前に



氏、橋都靖彦氏、鈴木保明氏の四氏に感謝状が贈られました。

近藤幹事長の指導を仰ぎながら、その行事に携わりました。その中で萩山郷土芸能保存の大切さ、重さ、運営の難しさを身を以て感じました。そして何より春祭りの笛・太鼓の音色が区民の皆様にも春を告げ、季節の変わり目を伝えてくれている事も感じました。この感じをも

山神社の春祭りは行われませんが、獅子曳きの児童が履く三つ重ねの「わらじ作り」は伝統を引き継ぐ一環行事として講習会を計画しております。より多くの方に参加して頂き、わらじ細工の特別な技工を覚えていただくべく御案内致します。又、この機会に破損の大きい獅子の幌の購入計画も立てております。伝統ある神事セレモニー(春祭り)を後世に伝えていく事が、芸能保存会の重要な使命と考えており、下市田区民の

今年「御柱祭り」の年

に当たり、萩

委員会活動報告

環境衛生委員長 上村 龍男

十五年度も、後わずかと

くても安心して回収作業が出来る様になりました。区民の皆さん、宜しくお願い致します。

環境衛生委員会では、毎月第一日曜日の資源ごみ、埋立てごみ、収集その他。五月のごみゼロ運動。八月の古紙回収。十月の環境の日のごみ収集も無事済みしました。後は、十六年二月の有害ごみ収集を残すだけとなりました。その他に五区では、会所の隣に立派な資源ごみ収集雨除け施設が出来ました。その為に毎月の資源ごみ、古紙回収時には、天候が悪

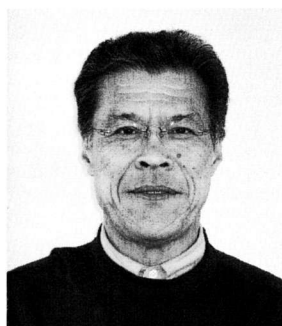


16年度 地元議員の抱負

(50音順)

築こう我が郷土

上沼 眞守



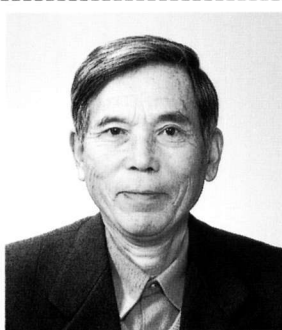
今年は申年で、また七年に一度の式年大祭の年でもあり、とかく申年は「にぎやかい」とも言われ、国内ではイラク派兵問題論議で年を越し、大きな節目の年となりそうである。

我が高森町の今年は、合併問題に一定の方向を出さねばならない時に来ているが、今一町民の皆様の関心が薄い様に見受けられる中で、議会としての役割として、議会だより特集号「市町村合併・自立について考えよう」を作成し、全戸配布致し、判断資料の一端として活用して頂ければと思います。

年頭に当たりこの紙面をお借りしまして、区民皆様のご健勝と、ご活躍をお祈り申し上げます。

環境問題について 思うこと

久保田 昌幸



昨年の十一月は、季節はずれの異常な高温と多雨の天候で、干柿作りに苦勞しました。原因は地球温暖化だといわれております。

町では今、環境基本計画作りが始められております。環境問題では、ゴミ対策が中心でしたが、次の大きな課題として、地球温暖化防止対策に取組む時期が来ていると思います。

二酸化炭素削減対策は、石油に替わる新しいエネルギー源として、太陽光発電や風力発電が行われておりますが、最近農業の廃棄物や生ゴミ、下水汚泥からメタンガスの発生、木質資源の活用の研究が進んでいると聞きます。今年はこの方面の研究をしたいと思っております。

基本が大切

熊谷 元尋



昨年アメリカ大リーグでは、松井秀喜選手が大活躍し、人気が集まりました。

人気の要因は、成績が良かっただけではなく、礼儀正しい人柄や姿勢、そして何より「きちんと打ち、きちんと守り、きちんと走る」野球選手として大切な、基本を忠実に守るところにあるそうです。

まちづくりでも基本を守ることが大切です。合併か自立かで揺れる町。合併しても自立が必要となります。それには、そこに住む人たちが自立をしていく覚悟をしなければなりません。

今年は私たち一人ひとりが、町から自立する「自立宣言」をしましょう。

財政に対する 気構え

小池 正春



新年を迎え、萩の郷の皆様のご健康と、御多幸をご祈念申し上げます。

来る年も又来る年も明るさの見えない年が続きます。唯一明るさがあるとすれば、それはスポーツにおいて日本選手の活躍が期待されるのみ。私は、このスポーツ精神に鑑みて、正々堂々とこの一年職務に対する歩を進めて行こうと思います。

国を始めとして地方まで厳しい財政状況の下、住民皆様からお預かりする税金が、町民益となるように、正しく使われるように、常に心して進言し、提案して参りたいと思います。

分かり合える年に

福沢 嘉言



昨年の流行語大賞に「なんでだろう」が入った。世の中本当に理解できない事ばかり。拉致やイラク問題に疑問が多いのなんだろう。公的資金が必要なのはむしろ国の危機的財政なのに逆行してるのなんだろう。合併すると町や文化が無くなるというがなんでだろう。世の中難しい問題が増えたのか、それともテレビは一億総白痴化するといわれたのが自分の身に現実となってきたのか、十分な説明がないのか、はたまた「バカの壁」か、なんでなんだろう。

しかし今年は千支に因んで一転「なるほど」でござるか」と、分かり合える年になるよう期待したい。

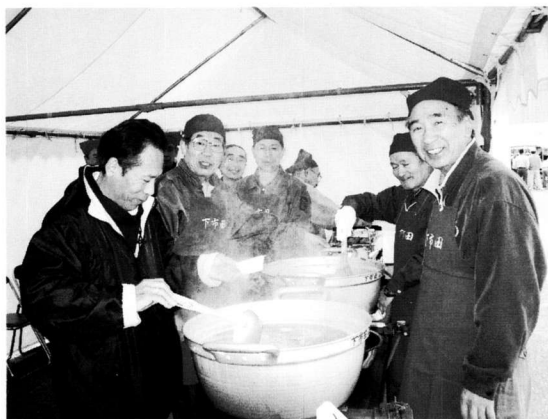


「売り切れ」札をぶら下げる状況であった。先輩の指導で飽を練る者、餅焼き専門、盛り付け、手渡し、呼び込み、順番整理と、にわか厨房と客席の間には、甘い香りに溶け合った笑顔と会話が満ち溢れる。それにしても、昨年の反省から三百食増しの二千三百食と増やしたものの、早め早めに中休みを取らざるを得ない始末で、楽し

みにして来て下さった大勢の方々に、果たして充分なサービスが出来るかどうかと一瞬、脳裏をかすめる。「味がとってもいい」「甘さ加減が丁度よくておいしい」……などと声をかけてくれると、つい会話が弾む。お世辞半分としても嬉しく、残り少なくなっていく鍋底を恨めしく見つめる。そして完売、午後二時過ぎ、正に立ちっぱなしの二日間であった。

鍋を洗い、会場の整理を終えると、快い疲れを夕日が癒してくれる。「ご苦労さん、お疲れさま」……旧知も初対面も声を交わす「ふれあい広場」であった。例年になく食材の値上がり等により、準備段階での試行錯誤もあったが、主催者側のご配慮によって無事終えることができたことに感謝し、二日間の出店に携わって下

多謝



ふるさと祭り コミュニティテント村へ出店

おいしい
おしるこ大好評！

下市田区出店

前夜の降雨も上がり、第二十三回たかもりふるさと祭りが、昨秋十一月十五・十六の両日盛大に開催され大いに賑わった。下市田区は、例年の「おしるこ店」で参加。女性ふると各区分副会長さんの協力参加を得て、準備品を三役で整え、副区長・分館長・

分館主事が受け持ち分担で待機。先年揃えたバンダナ・エプロン姿は、行き交う人々の目を引いた。コミュニティテント村は、昨年と様相を一変して舞台が北側に設置されたため、下市田おしるこ店は真真正面に舞台を見る位置となり、大勢の客入りは準備段階から予想された。言わば一等席に陣取った形であった。案の定、二日に亘る売れ行きは凄まじいもので、開店前から長蛇の列。一時間ですべてを消化、止むなく「売り切れ」札をぶら下げる状況であった。



「萩の郷」発刊の思い出

田戸純市

『下市田区も、町内の約三分の一を占める戸数を持つ大部落となり、昔の純農村は今やあらゆる階層の住む混住社会となって参りました。こうした中で、住みよい地域、我が下市田を造るにはどうしたらよいのかと、区の執行部もいろいろと苦慮致しておりますが、今回発刊の運びとなりました「萩の郷」も、その目的の一つとして取り上げました。(中略) 明朗な区政、明るい地域造りは、区民みなさんの手で、智慧で、努力で築いて行くべきであります。最後に皆さんに愛される読み物、待たれる区報として育って行くことを祈念致しまして、発刊のご挨拶と致します』



元区長 林直輔さん

内容も充実し、情報誌、郷土誌、意見提言。区・公民館・神社・芸能保存会の情勢報告、クラブ活動、小学生の

以上は時の区長 林直輔さん(昭和五十四年～六十年の間在任)が、区報「萩の郷」発刊(昭和五十九年一月一日(一九八四年)創刊号)の巻頭に述べられていた。今思えば、時の林直輔区長の英断は区の発展、地域造りに、大きな足跡を残されたものと賞讃致します。

作文など盛り沢山に成長発展し、今日に至っていることを大変嬉しく思い、代々編集に当たられた委員各位のご労苦に、慎んで感謝申し上げる次第であります。

ようこそ下市田へ

五区 牧内由香

下市田の皆さん、こんにちは。主人の敏也、長女の萌黄（小一）、次女の絢夏（年長）、三女の鈴音の五人家族です。主人の実家の近くに家を建て、こちらの五区にお世話になってもう二年半になります。引っ越して来るにあたって、主人の生まれ育った所でもある、義父母や今は亡き祖母がいろいろと準備をしてくれましたので、私自身の不安はなかったのですが、やはり心配は子供の事で、保育園



豊かな自然から四季のうつろいを肌で感じる事の出来る幸せ。この地で採れたおいしい果物や野菜、乳製品等を口に出来る幸せ。店や病院が近く、利便性がよいという幸せ。そして、人に恵まれているという幸せ。こんなに素敵な下市田。将来、子供たちにとって大好きな故郷になると思います。

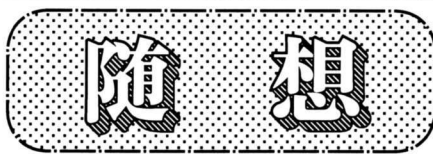
これから末永くお願いいたします。

南天

四区 服部邦夫

南天は今年も又赤い実をびっしりつけている。自宅から四十キロ弱の所に私の実家がある。毎年暮れになると、女房と二人で墓参りを兼ねて、そこへ正月用の南天を採りに行くのが恒例になっている。

今回は一人で行くことにした。湖岸道



昔の町並み

五区 松崎 愉

わたくしの父は木工所を営営していました。祖父も木工の職人でした。直径二メートルほどのある材木を

我が家の前には飯田紬の



機織をしているおばあさんが住んでいて、朝から晩まで機織の音がしていました。その隣は大工さんで、その斜め向かいには煎餅の入ったおきなガラス瓶がいくつもある菓子屋でした。一軒隣にはテーラーの看板を出した洋服屋さんがありました。近くには染物を生業としていた家もありました。その家の前を流れる小川にはその染を流していたので、川の中を布がいつも泳いでいました。その先には達磨を作っている家があり、色のついていない達磨がいっぱい

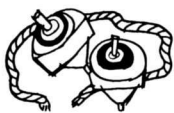
るのに驚いた。思いもよらず隣の家が取り壊されて無くなっていった。実家だけがポツンと取り残された感じで、過疎化の激しい現実を目のあたりにして、言い知れぬ寂寥感を覚えた。家の南側石垣の元に、赤



く熟した美しい実をつけ、重く垂れさがった見事な南天が私を待っていてくれた。以前にこの南天を持ち帰り自宅へ植えたが、赤い実の数は極端に減り色艶を失っている。やはり気候、土地等の条件は、ここが最適と思われる。私は、見栄えのする枝を数本切り取った。

ときどきその場所を通ることがあるのですが、今はもう面影もありません。

わたしの作文 ぼくの作文



野球に夢中

小五 三村健人(三区)

ぼくは、四年生の時からスポーツの野球を始めました。四年生の時は、ぜんぜんボールを打つことができませんでした。でも、五年生になってからは、いっぱいヒットを打てるようになりました。そして、ボールも遠くに投げることができるようになりました。



試合の時、ぼくのせ番号は、九番です。九番のポジションは、ライトです。でも、ぼくはライトです。でも、ぼくはライトです。

五年生になって、いろいろな大会に出ましたが、強いチームがいっぱいありました。その中でも、豊丘と松川が強かったです。この両チームに勝てなかつたので、六年生になったら絶対勝ちたいです。去年は、ホームランを一本も打つことができなかったのですが、今年は、ホームランをいっぱい打って、いろいろな大会で優勝したいです。

二つ目は、友達ができた事です。初めて北小と南小が一緒になるので友達になれるかは心配でした。でもすぐできました。今はもう友達がいっぱいいます。

中学生生活を振り返って

中一 酒井優李(二区)

私は中学校生活の中で、一番うれしかった事、かなしかった事を振り返りたいと思います。私が一番うれしかった事は、二つあります。一つ目は、初めての文化祭をして、一日目になっちゃんずカップという運動会みたいなものをやりました。ここから私がいれなかった事です。文化祭二日目に音楽会があった。

一組、二組、三組、次が私たちの出番です。みんなは緊張していました。そして、ステージにのぼり指揮者が手をあげ曲をひき、みんながいっしょに口をあげ歌いました。みんなは三組が優勝して金賞がもらえると聞いていたけど、なんと四組が金賞で、三組が銀賞でした。みんなはあせんとした。

二つ目は、友達ができた事です。初めて北小と南小が一緒になるので友達になれるかは心配でした。でもすぐできました。今はもう友達がいっぱいいます。

かなしかったことは、大なわのクラスマッチで一回目は勝ったのでよかったのですが、二回目のクラスマッチは二組に負けてしまってたし、くやしかったです。でも、みんなで力



新刊図書紹介

支館図書の平成十五年一月から十二月までの利用総数は、百十三冊。昨年度とほぼ同じ利用状況であり、利用してくださる方も同じような顔ぶれでした。新年早々新たに、部員総出で三十九冊の本を購入しました。小さいお子さんにも利用していただけるよう絵本から、話題のベストセラーまで多様な分野で、そろっています。今まで利用したことのない方も、気軽に来館し、本を手にとりたいと思います。

利用方法

- 一、来館した折にいつでも借りられる。
- 二、図書貸出簿ノートに記入するだけ。
- 三、貸出期間は一ヶ月

購入図書

一部紹介

化生の海、世界の中心で愛をさげぶ、美しき日々(上下)、電池が切れるまで、ファイティング、ニモ、ひとりでは生きられない、ちいちゃんのかげおくり、おいしいのぼるうけん、カルロス



グループ紹介

二区手編みクラブ

二区 中村百合子

棒針編みや
鉤針編み、
アフガン編

私達のグループは、同じ二区の矢沢ツユ子先生をお願いして、平成元年六月に誕生しました。月に一回、夜七時半から十時迄、最初は二区の会所。今は先生の教室にお邪魔して自分だけのオリジナルな作品作りを楽しんでいます。

長い間には家庭の都合や健康の事情などで会員の出入りもあったり、休会している会員もおりますが、皆手編みの好きな人ばかりで

一本の糸がセーターやベスト、カーディガンなどの形になっていくのは本当に楽しみなものです。編み針を持ったことのなかった人でも、今では複雑な模様入りカーディガンなども編めるようになりました。



手編みの魅力は暖かく着やすいことです。又、編み直しがきくことも良いことです。子供の小さくなった上下服などを解き、新しい糸を少し加えて編めば、まったく別の新しいベストやセーターに生まれ変わり、それも楽しみな一つです。指や頭も使うので、老化防止に少しは役立つかも?という期待も皆さんも手編みを始めてみませんか。

一区の分館事業紹介

一区部落長 中村 忠敬

十一月「個
展・展覧会」
をふれあい会

地域の紹介

一区の現況は（十五年四月現在）人口は千四百名余（内七十五歳以上の方々も百四十名）、十九常会、三十八隣組数です。部落三役と分館二役、常会長会とで協議運営しております。

支館活動としては、七月「夏祭り」を、中央公園で実施。昨年の反省から、子供を含めて楽しめる祭りを考え、小学生高学年の子供達にも、夜店・金魚すくい・輪投げゲームを任せて一緒に楽しんでもらいました。二百袋の花火も不足する盛況でした。

九月「芸能祭」常会と各種クラブの発表、昼食を挟んで四時間、福祉センターの大ホールに四百人余りの方々が、一堂に会して昼食。酒も入り大盛況でした。



分館支館事業

分館長会長 松岡 修二

分館長・主事は四月の初会合から、年に八回程公民館町本館の会合に出席し、各種事業の打ち合わせ、終了後はその都度反省会で、次回もまた最善となるべく意見集約をしています。

七月はバレーとソフトの大会、八月の盆野球大会、十月は町民運動会、十一月の歩こう・走ろう秋の高森計画はバレーとソフトの大会が計画されております。

会合で詳細が決まると、分館にかえり選手の選考。それから当日までの練習日を設定、そして本番、反省会に慰労会と続きます。さらに春は植樹祭、公民館活動の先進地視察、コミュニティ活動の一環でふるさと祭りのテント村でお汁粉のサービス、成人式への出席となると忙しい事。さらに各分館で計画される事業があります。その遂行も中心となって行う立場です。支館事業では秋の里祭りに文化祭り・敬老会等があり、裏方を勤めます。

この様に多忙な十二名ですが、同時期にこの様な役を引き受けたのも何かの縁、お互い助け合って最後まで勤め上げよう、

編集後記

元日紙上の墨書「嘉慶」

の二文字から一際鮮やかな印象を受けました。不況逆境を乗り越え、手を携えて共に歩む喜びを体感できる善き年を念願いたします。

新しく信任された区三役の紹介ご挨拶を始め、ご退任のお話、委員会活動報告や郷土芸能保存会の現状、地元町議諸氏の抱負や子供達の声等々、新春の息吹に添えてご覧下されば幸甚と存じます。

昨秋のテント村おしるこ出店は好評で長蛇の列、完売、嬉しい悲鳴の内に終了しました。皆様方のお力添えを有難く存じます。

終わりに、区報館報発刊の由来とご苦労の来歴につき、尊いご体験を通してご高説を寄せられた大先輩に、厚く感謝申し上げます。